

目的の評価

全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議

学内行事委員会

本資料は、学園祭実行計画書運営要領「Ⅰ.概要 B.目的」において定めた目的をもとに、第 51 回筑波大学学園祭の総合的な評価を行うものである。アンケート集計結果等については「目的の評価補足資料」を参照されたい。

1 第 51 回筑波大学学園祭「雙峰祭」目的

変化の時代を迎えた今、多様な価値観が共存できる場を目指し、次の半世紀に向けて新たな歩みを進めるとともに、筑波大学の魅力をより多くの人々に力強く発信する場とする。

この目的が達成されたかを、学園祭実行計画書の運営要領「Ⅱ.詳細 A.委員長団」に記載があるように参加者アンケートの結果などの資料を参考にしつつ評価し、最後に第 51 回筑波大学学園祭の総合的な評価を行う。

※アンケート集計結果等については「目的の評価補足資料」を参照

2 項目ごとの評価

2.1 「多様な価値観が共存できる場を目指す」

今年度の雙峰祭も昨年度に引き続き、飲食企画、学術企画、ステージ企画において多種多様な企画があった。もっとも印象に残った企画への投票が分散していたことことから魅力的な企画が多々あったことがうかがえる。また、来場者アンケートにも、企画の多さから筑波大学の多様性や様々な文化を感じることができたという意見があった。このことから、多様な価値観が共存できる場を目指すという目標は概ね達成できたと考える。

2.2 「次の半世紀に向けて新たな歩みを進める」

今年度の雙峰祭では、新しく松美池ライトアップやぶらり旅企画、昨年度に引き続き雙峰祭特別ライブ企画も行われた。「最も印象に残った委員会企画を教えてください」という質問に対して、これらの企画の回答数は合計 16%となっており、数多くの企画の中で好印象を残したことがうかがえる。一方で、改善してほ

しい点はあるかという質問で、自然や科学を活用したイベントがあってもいいという意見もあったため、来年度以降の企画を考える際の方針として考えていきたい。全体的には、新たなことに取り組み、概ね成功したといえるだろう。よって、「次の半世紀に向けて新たな歩みを進める」という目標は達成できたと考える。

2.3 「筑波大学の魅力をより多くの人々に力強く発信する場とする」

今年度の来場者アンケートの回答数である 2533 件は、昨年度の 1814 件と比較して約 140%増加していた。来場者アンケートにおいて、「筑波大学やつくば市の魅力を感じることができたと思いますか」という質問について感じたに近い 2 段階を選択した人は 89%であった。具体的な内容としては、学生主体の運営や雰囲気によりポジティブな感想を抱いている人がいた。これらのことから、筑波大学の魅力を多くの人々に力強く発信する場とするという目標は達成できたと考える。

3 まとめ

今回の雙峰祭、虫の発生のようなトラブルやさまざまな企画において規模の拡大が見られたが、トラブルへの対処も含め概ね滞りなく運営されたものと評価できる。また、来場者アンケートからは学生の活気のある姿や筑波大学の良さを感じることができたことがうかがわれ、来場者からの評価も高かったと言える。一方で、休憩所やステージの生配信、案内の看板設置においてはまだ改善点があると言える。このような今年度の反省点を踏まえて、次年度以降、より可能性の広がる雙峰祭となることを期待する。